IMJ
日本統合医療学会 会報
# IMJニュース
No.42
2023年9月25日発行

編集・発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL：http://imj.or.jp/
〒 170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　駒込TSビル 4階　一般財団法人口腔保健協会内
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail：imj@imj.or.jp　TEL：03-3947-8891

## 巻頭言

# 第27回日本統合医療学会学術大会「健康長寿と統合医療―こころ・からだ・たべもの・くすり」をテーマに開催します

山田　静雄
第27回日本統合医療学会学術大会長
静岡県立大学大学院薬学研究院　薬食研究推進センター

会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの全世界的な蔓延も収束を迎え，以前の生活を取り戻しつつあります。この度，第27回日本統合医療学会学術大会を12月16日（土）～17日（日）に静岡県コンベンションアーツセンターにて開催することになりました。

近年の医学・医療の目覚ましい進歩や生活環境の整備により，多くの病気の治療が可能になった一方で，疾病構造も急性疾患から生活習慣病中心の慢性疾患へシフトするとともに，心の病や多剤服用が増え医療費は増加の一途を辿っています。健康寿命をおびやかす要支援・要介護の原因として，認知症，運動機能の障害であるロコモティブシンドロームやフレイルなどがあり，それらのケアと予防は重要な課題となっています。また高齢者においては複数の疾患を併発している患者が多く，食欲不振，摂食・嚥下障害，便秘，認知機能障害，うつ状態やフレイルなど高齢者の生活の質（QOL）に悪影響を及ぼすポリファーマシー（多剤服用）による抗コリン性有害事象が大きな社会的課題となっています。高齢者が頻用する薬剤には抗コリン作用を示す薬剤が多く（約600剤との報告），本邦では海外に比べポリファーマシー対策の遅れが懸念されます。私たちは最近，高齢者に頻用される260薬剤を用いて，ポリファーマシーによる有害事象の回避・減薬の科学的根拠となる薬剤の抗コリン負荷スコアを本邦で初めて開発することができました。今後の実臨床での有用性が期待されます。

世界保健機構（WHO）によると，「健康とは，身体的，精神的，社会的良好な状態のことで，単に病気がない状態だけではない」と定義されています。健康の維持・増進のための基本的要素は，食・栄養，運動と休養です。自らの健康管理に努めるセルフケア・セルフメディケーションが普及し，健康増進や病気の予防・治療を目的として，ビタミン・微量元素などの食・栄養療法・サプリメントや機能性食品，ハーブ療法，アロマセラピー，マッサージ，アーユルヴェーダ，鍼灸，ヨーガ，カイロプラクティック，オゾン療法，温泉療法などのさまざまな相補（補完）・代替医療や伝統医療とともに，これらを近代西洋医学と組み合わせた統合医療の実践により，費用対効果が高くQOLを重視した全人的医療が期待されています。統合医療には，医療従事者が中心となる医療モデルと地域のコミュニティが主体となる社会モデルがあり，医療，保健，福祉の三位一体の体制で統合された包括的ケアシステムの構築が重要となっています。

静岡大会は「健康長寿と統合医療－こころ・からだ・たべもの・くすり」というテーマで，学術的および実践的な研究成果を発表・議論し統合医療の更なる発展を期すものです。

具体的には，特別講演，シンポジウム，ワークショップ，教育セミナー，一般演題発表，機器展示など魅力あるプログラムを企画しています。

「人生100年時代を健康で生きぬく」ための秘訣について，多様な切り口から統合医療的視点をふまえて議論していただきます。

市民講演会では，自由民主党統合医療推進議員連盟会長の橋本聖子参議院議員から「日本発の統合医療を目指してーキュアからケアへ，そして健康なまちづくり」と題してご講演をいただきます。

本大会には医師，歯科医師，看護師，薬剤師，栄養士をはじめとして，鍼灸師，アロマセラピスト，ヨーガ療法士などさまざまな医療従事者が一堂に集い交流します。静岡県内開催は初めてであり，学術研究者のみならず医療専門職や市民参加型の会として，統合医療への理解を深めるとともに静岡から「健康長寿と統合医療」に関する新たな情報発信の機会にしたいと考えています。

静岡市は，徳川家康公が人生の約３分の１を過ごされた地であり，幼少時代に教育を受けたとされる臨済寺，大御所時代に居城となった駿府城などゆかりの地

を多数有します。家康公ゆかりのスポットとして，駿府城公園，久能山東照宮，静岡市歴史博物館，大河ドラマ館などがあります。「どうする家康　静岡大河ドラマ館」は静岡浅間神社の境内にある市の旧文化財資料館を改修し開設されました。ドラマに登場する衣装や小道具，ここでしか見られない4Kシアターやゆかりの地を紹介する展示などドラマの世界観が静岡市ならではの展示で楽しめます。風光明媚な名所や静岡ならではの海の幸，山の幸などの食文化にも恵まれ，グルメも多数あります。美しい富士山と駿河の海，温暖な気候や美味しい食事など，家康公が静岡を愛されたわけを実感していただけることと存じます。

静岡の歴史と自然，食文化に触れ，家康公が夢見た未来，平和な日本の姿を探してみませんか。４年ぶりの対面形式の開催予定ですので多くの皆様が静岡にお越しくださることを楽しみにしています。

久能山東照宮

静岡浅間神社

## 第27回 日本統合医療学会学術大会の概要

**代表理事講演**

「健康長寿と統合医療－ヒトの進化の過程への一考察」
伊藤 壽記（日本統合医療学会代表理事，大阪がん循環器病センター所長）

**大会長講演**

「人生100年時代の健康長寿を考える－こころ・からだ・たべもの・くすり」
山田 静雄（静岡県立大学特任教授，大学院薬食研究推進センター長）

**特別講演**

1.「安全と健康で長寿社会を」
尾池 和夫（静岡県公立大学法人理事長兼静岡県立大学学長）
2.「ゲノム医療の新展開―統合医療の視点から」
山口 建（静岡がんセンター名誉総長兼理事）
3.「統合医療と心身医学―身体・心理・社会・環境から観る」
久保 千春（中村学園大学・短期大学部学長）
4.「『適塩和食』で健康寿命は延ばせる－世界の健診からの福音」
家森 幸男（武庫川女子大学国際健康開発研究所所長）
5.「人生100時代の健康・医療サービス」
江崎 禎英（社会政策課題研究所長）
6.「大災害を経験し，変革してきた我が国の災害対応－防ぎえる災害死回避のための保健医療・福祉への拡大」
大友 康裕（国立病院機構災害医療センター病院長）

**教育講演**

1.「経絡ファシア論と最新経路情報」
建部 陽嗣（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構研究員）
2.「高齢者におけるフレイルとポリファーマシー」
梅垣 宏行（名古屋大学大学院医学研究科地域在宅医療学・老年科学教授）
3.「糖尿病とその先の心と体に関するフラクタル解析の科学」
Dr. Jibin Chi(CHI Awakening Academy President, Sweden)

**シンポジウム**

1.「統合医療からみた地域創生と社会モデル－プラネタリーヘルスの視点をふまえて」
2.「災害と統合医療，多職種連携」
3.「伝統医学に見る食薬活用の現状」
4.「AI，VRと統合医療」
5.「慢性疾患と統合医療」
6.「統合医療学総論の構築」
7.「統合医療と看護と自然治癒力」
8.「機能性食品と疾患」
9.「スピリチュアリティと統合医療」
10.「『生命の誕生から旅立ちまで』の地域包括ケアを考える」

**ワークショップ**

1. 認定制度委員会との合同企画「基礎医学検定に関する意見交換会」
2. 認定制度委員会との合同企画「総合医療カンファレンス・食と健康長寿」
3.「医師向けの鍼治療講座」
4.「統合医療と運動」
5.「要支援，要介護者の命とQOLを守る口腔ケア」

**一般演題（ポスター）発表：73題**

**市民公開講座**

講演1　川嶋 みどり「ぴんぴんキラリと自分らしく生きましょう－九十路の実感を通して」
講演2　橋本 聖子「日本発の統合医療を目指して－キュアからケアへ，そして健康なまちづくり」

（敬称略）

**協賛（ランチョン）セミナー**

㈱絆ジャパン，テクノスルガラボ㈱，セイリン㈱，東栄新薬㈱，セリスタ㈱，㈱シニアライフクリエイト，アミノアップ㈱，㈱SOPHIA

**統合医療関連の企業（20社）展示**

第27回学術大会

## シンポジウム「伝統医学にみる食薬活用の現状」ならびに「医師向け鍼治療ワークショップ」

｜関　隆志｜
フジ虎ノ門整形外科病院　東洋医学総合診療科
高嶺の森の診療所

**シンポジウム「伝統医学にみる食薬活用の現状」**

がんを含め，わが国では「生活習慣病」が猛威を振るっているが，その生活習慣の柱の1つが食事であり，高血圧症や脂質異常症など多くの生活習慣病の治療ガイドラインの初めには「食事療法」が推奨されている。

図1　アーユルヴェーダのシローダーラ

図2　中国伝統医学の漢方薬

古代西洋のエジプトやギリシャなどでも天然物（植物，動物，昆虫，鉱物）を「薬」として利用していた。いわゆる食物が治療に用いられていた。

南アジア（インド）発祥の伝統医学「アーユルヴェーダ」，東アジア（中国）発祥の伝統医学「中国伝統医学」には，古代から現在まで食物で病気の予防や治療を行う方法が知られ，実践されている。また，わが国からは玄米菜食を中心とした「マクロビオティック」が発信され世界に広まっている。

当シンポジウムではアーユルヴェーダと中国伝統医学の医師にそれぞれの国の現在の医療と家庭で食事療法がどのように行われ活用されているかを概説していただく。わが国からはマクロビオティックに精通し，さらには酵素療法を中心にすえて実践されている専門家にその現状についてご紹介いただく。

**医師向け鍼治療ワークショップ**

鍼治療のエビデンスは年々増えている。海外では患者からのニーズが高く，医師免許を持った者が行っている国が多い。またわが国では一般的な医療に比して有害事象が少ないという報告もある。

一方で現代の最先端医療をもってしても治癒させることのできない「アンメットニーズ」があり，漢方薬や鍼灸治療などの伝統医学や補完医療に対する期待は小さくはない。一般に，ひとは知らないもの，経験のないものに対して，無意識に拒絶反応を示す傾向がある。このワークショップの目標は，医療従事者に鍼治療の実際を体験していただき，将来的に医療機関で鍼治療を行う機会を増やすことである。

幸いなことに，わが国の医師数は256,668名（2004年）であるのに対し，はり師免許取得者は126,798名（2020年度）と豊富な人材がすでにある。医師の鍼治療に対する認知度が上がれば，こうした人材を医療の現場で活用し，患者の医療満足度を向上させる事が期待できる。

図3　鍼治療

第27回学術大会

## シンポジウム「統合医療学総論の構築」

｜小池　弘人｜
統合医療学総論構築委員会

統合医療とは何か？　我々はこの問いに向き合わずに，本来統合医療を語ることはできない。しかし日々，専らとする相補代替医療や臨床的な取り組みを行うにあたって，このような問いを自らに問いかけることは，ほとんどないのが実情であろう。

そのようなことに煩わされずとも，臨床的な事柄は進行する。しかし本学会も今回で27回を数え，学会設立から四半世紀を超える今，「統合医療とは何か」というこの根本的な問いを，あらためて打ち出す時が来たのではなろうか。

それは本分野に参入しようとする次世代の方々に対し，通常の医療とはどう違うのか，いわゆる相補代替医療ではいけないのか，等の問いかけに答えることでもある。そしてこの問いを正面から考えるのが，統合医療の「総論」という領域なのである。

第27回静岡大会においては，この「総論」を構築するためのシンポジウムを企画し，疑似科学との線引き問題を中心に京都大学・伊勢田哲治教授に基調講演を頂く。これまでに委員会等の討論で抽出された「相補代替性」と「多元性」というキーワードと共に，皆様と統合医療総論確立の橋頭堡としたい。

また「統合医療とは何か」に限らず，「科学とは何か」という大きな問いに関心をもつ会員諸氏にも広くご参加頂ければ幸いである。

第27回学術大会

## 認定制度委員会との合同企画ワークショップ

｜小池　弘人・板村　論子｜
認定制度委員会

当委員会では，統合医療を具体的に運用する知識を担保することを目的とした認定制度を構築しようという取り組みを行っております。そこで第27回日本統合医療学会学術大会（静岡大会）において，その具体的取り組みとして，2つのワークショップを企画しました。

1つ目は，統合医療の大きな基盤となる基礎医学の学習を促進することを目的として，基礎医学検定の実施を計画しております。本大会においては，先だって開催されたこの検定試験のパイロットテストの内容と，受験者のアンケート結果から，理想的な検定の在り方を皆様とともに考えていこうと思います。このワークショップご参加の皆様にも，是非ご意見を伺いたいと考えております。

2つ目は，統合医療臨床を具体的に行うにあたって不可欠である統合医療カンファレンスの実践講座を開催します。テーマは本大会のメインテーマとあわせ「食と健康長寿」です。多彩な食養生の考えから，どのように選択・決定して自らの健康増進に役立てるかを多元的に議論していきます。また統合医療カンファレンスにおけるファシリテーションの意義や，実際の開催にあたってのコツなどもお話していきたいと思います。

ともに統合医療の実際の展開には不可欠なものです。是非とも本大会を契機として，皆様の「統合医療力」をブラッシュアップしてみませんか。

第27回学術大会

## シンポジウム「災害と統合医療」災害支援に統合医療が利活用されるには何が必要か？

｜小野　直哉｜
日本統合医療学会災害委員会副委員長

日本では，今後，南海トラフ巨大地震や首都直下型地震，富士山噴火等の甚大な災害が危惧されています。2011年3月の東日本大震災以降，当学会では，自治体の元危機管理監や防災や災害医療の専門家のDMAT（災害派遣医療チーム）等の協力を得て，学術大会での「災害と統合医療」の講演やシンポジウムを開催して来ました。その中で，統合医療が防災や災害医療等，災害支援の分野で認知されていないことや，被災地での災害支援における統合医療関係者の防災や災害支援の知識やマナーの欠如が指摘されて来ました。災害を経る度に，災害医療の守備範囲は変化し，現在，災害医療は急性期だけでなく慢性期の災害関連死も含めた支援として「多職種連携で支える災害医療」が求められています。

また，大規模災害が発生した際，保健医療のみでは福祉分野の対応ができず，保健・医療・福祉の連携が重要であることから，令和4年から被災自治体では，災害対策本部の下に災害対策に係る従来の保健医療活動の総合調整を行う「保健医療調整本部」ではなく，保健医療福祉活動の総合調整を行う「保健医療福祉調整本部」を設置することになっています。

現在の日本の法制度下では，公的災害医療支援は，医療に係る国家資格の免許取得者に限定されています。医療に係る国家資格の免許取得者でない伝統医療や相補・代替医療従事者は，現状では公的災害医療支援に関わることはできません。一方，南海トラフ巨大地震等では，防災や災害支援のマンパワー不足が懸念されています。統合医療関者においても，来たる甚大な災害に備えるには，医療に係る国家資格の免許取得者及び免許取得者でない伝統医療や相補・代替医療従事者を問わず，基礎自治体の地域住民として，最低限必要な防災や災害支援の知識やマナーを身に付けることが望まれます。それは，被災地となる基礎自治体において，統合医療関係者各自が災害を生き抜くためでもあり，将来，防災や災害医療の専門家等と多職種・多様者連携し，被災地での災害支援に統合医療が利活用され，統合医療による災害支援が社会実装されるための素地を育むことに繋がります。

本シンポジウムでは，防災や災害医療の視点から，統合医療関係者が，来たる甚大な災害に備えるために，地域住民として最低限必要な防災や災害支援の知識やマナーを身につけ，被災地となる基礎自治体において，防災や災害医療の専門家等と多職種・多様者連携し，災害支援に統合医療が利活用されるには何が必要かを検討します。

## 事務局だより

**【2023年4月～2023年9月までの会議等】**

- ■2023年5月7日　第3回業務執行理事会，第2回理事会(2023年度)
- ■2023年6月18日　選挙制度ワーキンググループ会合
- ■2023年8月26日　第4回業務執行理事会（2023年度）
- ■2023年8月27日　第6回支部のあり方ワーキンググループ（通算）
- ■2023年9月17日　第3回理事会（2023年度）
- ■2023年9月17日　賛助会員懇談会（2023年度）

**【2023年4月～2023年9月までの学術大会・研修・セミナー等】**

- ■2023年5月6日　認定研修Part3
- ■2023年5月7日　認定研修Part4
- ■2023年6月17日　認定研修Part5
- ■2023年6月18日　認定研修協働師Part5
- ■2023年6月18日　認定制度新規申請者に対する試験
- ■2023年9月16日　2023年度学術研究セミナー

**【今後の予定】**

- ■2023年10月28日　災害研修会（オンライン）
- ■2023年11月　第1回業務執行理事会（2024年度）
- ■2023年11月26日　基礎医学検定パイロットテスト（オンライン）
- ■2023年12月15日　第1回理事会（2024年度）
- ■2023年12月16日～17日　第27回日本統合医療学会学術大会・総会

**編集後記**

●彼岸花の赤が彩る季節ですが，この夏の厳しい暑さは未だ未だ後を引き，5類に代わっても新型ウイルスの勢いは収まる気配はありません。一方，世界各地での山火事や大洪水，日本でもゲリラ豪雨で水浸しの市や町。そうした中，久々の対面での学術大会が静岡で開催されます。誰もが健康に生き抜く上で，市民参加型の新しい統合医療の可能性を探る大会です。わくわくするような多彩なプログラムを共有し職域を超えて語り合いましょう。（川嶋みどり）